

令和元（2019）年度「卓越大学院プログラム」審査結果について

卓越大学院プログラム委員会

「卓越大学院プログラム」（以下「本事業」という。）は、新たな知の創造と活用を主導し、次代を牽引する価値を創造するとともに、社会的課題の解決に挑戦して、社会にイノベーションをもたらすことができる博士人材（高度な「知のプロフェッショナル」）を育成することを目的とする事業である。

大学院の量的拡大を経ての修士・博士人材の増、大学における研究環境の一定の改善、世界的な競争力を有する研究分野の増加等が進む一方、経済成長が低下する中で世界における我が国のプレゼンスは揺らいでいる。特に、近年では優秀な若者が博士課程に進学しない「博士離れ」の状況が、我が国の知的創造力を将来にわたって低下させ、学術や科学技術イノベーションを含めた国際競争力の地盤沈下をもたらしかねない深刻な事態である。

今後我が国が豊かさを維持し成長していくためには、経済・社会の変化が急速に進む中で世界の産業構造を捉え、将来の新たな基幹産業を我が国が主導して創出すること（Society 5.0 社会の実現）が求められており、今日の大学院には、その源となる知や技術を生み出すとともに、それらを社会的価値につなげることでできる人材を輩出することが求められている。

これまでも、平成23（2011）年度から開始された「博士課程教育リーディングプログラム」等を通じて進められてきた世界的課題を解決するグローバルリーダーの養成に加え、今後はさらに、世界の学術を牽引する卓越した研究者や、知を社会に実装することを主導する起業家、イノベーションをリードする企業人、国内外のパブリック・セクターにおいて政策立案をリードする人材など、俯瞰力及び独創力並びに高度な専門性を備え、大学や研究機関、民間企業、公的機関等のそれぞれのセクターを牽引する卓越した博士人材、すなわち、高度な「知のプロフェッショナル」をあらゆるセクターに対し輩出することが必要であり、これまでの取組によって各大学に蓄積された人材や研究の強みを生かし、我が国の未来の社会を支える国際的な競争力を備えた大学院を博士人材育成の場として形成していくことが必要である。

本事業は、各大学が持つそれぞれの問題意識に基づき当該大学全体の大学院改革を実現することを前提として、本事業への参加と取組及びその成果を通じ、我が国全体の大学院改革、すなわち大学院システム全体の見直しや各大学院における教育改革加速化を推進するものである。我が国をリードする大学院改革事業として、各大学の特色・強みを生かした独自の構想づくりを期待し、それぞれの自由な発想を生かした提案を求めた。

本事業では、国際的に通用する博士課程前期・後期一貫した質の保証された学位プログラムを構築・展開する取組について、以下の（１）から（４）の要件を満たすものの中から、高度な「知のプロフェッショナル」育成という目的に照らし、「卓越性」、「構想の実現可能性」、「継続性及び発展性」、「実効性」等を、教育研究の観点及びマネジメントの観点から総合的に勘案し選定することとし、審査の結果、卓越性が認められない取組は、実現可能性・継続性及び発展性・実効性が全て認められる場合であっても、採択しないものとした。

- （１） 高度な「知のプロフェッショナル」を育成するために、養成すべき人材像（どのような分野で活躍し、いかなる価値を創造して人類社会の課題解決を牽引する人材を育成するか）を明確に設定しているものであること。
- （２） 学長の責任の下、大学本部が主体的に関わる体制を構築し、当該大学の大学院全体の改革を実現する観点から、プログラムの構築・実施、成果の波及、取組の継続性・発展性の確保等を図るものであること。
- （３） 補助期間終了後に、高度な「知のプロフェッショナル」を輩出する仕組みとしての質が下がることがないようにすること。

- (4) 高度な「知のプロフェッショナル」にふさわしい俯瞰力及び独創力並びに高度な専門性が涵養されるよう、広範かつ一貫した教育課程を構築するものであること。

本年2月8日から4月17日までの公募期間内に国公私立大学から44件の申請を受付け、独立行政法人日本学術振興会において卓越大学院プログラム委員会の下に審査・評価部会を設け審査を行った。

審査・評価部会における審査では、提出された申請書類による「書面審査」を行う一次審査とヒアリングによる「面接審査」を行う二次審査の2段階審査を実施した。一次審査では主に専門的・学問的な知見により申請プログラムに深く関係する分野にかかる学術活動の水準等の卓越性及び教育プログラムとしての卓越性について意見を付す審査意見書を作成し、それを参考として審査委員が書面審査を実施の上、合議により面接審査対象プログラムを選定した。面接審査では構想ごとにプログラム責任者、プログラムコーディネーター等を対象にヒアリング審査を3日間にわたり実施した。

これらの審査に基づき、8月7日の本委員会において11件を採択することが妥当という審査結果をとりまとめたので公表する。

今年度採択されたプログラムは、高度な「知のプロフェッショナル」の育成という、本事業の目的に沿って、各大学において、どのような卓越した博士人材を育成するのかという定義付けが適切になされ、その上で、どのような取組や教育プログラム、あるいは環境の整備が必要なのかが十分に検討され、自然科学分野から人文・社会科学分野までを取り込んだ大学院全体の改革につながるような優れた提案であった。特に、人文・社会科学分野が牽引し、我が国の大学院改革をリードする新たな提案があったことは期待される取組であると言える。

社会の変革がめまぐるしい今こそ、引き続き大学には、培われた知識や洞察力を将来の価値創造や現実社会の問題解決に生かすという役割が期待されており、国公私立大学の大学院改革をリードする新たな提案を期待したい。

当委員会としても、今後も引き続きより良い審査を行うことができるよう、公募及び審査の在り方をさらに検討していくこととしたい。

資料

1. 令和元（2019）年度卓越大学院プログラム 申請・採択状況一覧
2. 令和元（2019）年度卓越大学院プログラム 採択プログラム一覧
3. 令和元（2019）年度卓越大学院プログラム 審査経過状況一覧
4. 令和元（2019）年度卓越大学院プログラム委員会等の日程について

1. 令和元(2019)年度卓越大学院プログラム 申請・採択状況一覧

区分	申請数		採択数	
	大学数	件数	大学数	件数
国立	24	39	9	11
公立	1	1	0	0
私立	4	4	0	0
合計	29	44	9	11

2. 令和元(2019)年度卓越大学院プログラム採択プログラム一覧

連番	大学名	プログラム名称	プログラムコーディネーター	連携先機関名
1	東北大学	変動地球共生学卓越大学院プログラム	中村 美千彦 (大学院理学研究科地学専攻・教授)	Stanford University、Harvard University、University of Washington、University College of London、University of Indonesia、Sorbonne University、University of Hawaii at Manoa、独立行政法人国際協力機構、東京海上日動火災保険株式会社、日本工営株式会社、五洋建設株式会社、株式会社NTTデータ
2	千葉大学	アジアユーラシア・グローバルリーダー養成のための臨床人文学教育プログラム	米村 千代 (大学院人文科学研究院行動科学研究部門社会学講座・教授・人文科学研究院長)	岡山大学大学院社会文化科学研究科日本・アジア文化専攻、岡山大学大学院社会文化科学研究科人間社会文化専攻、岡山大学大学院社会文化科学研究科社会文化学専攻、長崎大学大学院多文化社会科学研究科多文化社会学専攻、熊本大学大学院社会文化科学教育部現代社会人間学専攻、熊本大学大学院社会文化科学教育部文化学専攻、熊本大学大学院社会文化科学教育部人間・社会科学専攻、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻、国立歴史民俗博物館、浙江工商大学東方語言文化学院、ロシア人文大学東洋古典学研究所、イオン株式会社、公益財団法人イオン環境財団、株式会社JTB総合研究所、千葉銀行
3	千葉大学	革新医療創生CHIBA卓越大学院	中山 俊憲 (大学院医学研究院・高次機能治療学研究講座・教授・副学長・医学研究院院長)	カリフォルニア大学サンディエゴ校、南カリフォルニア大学、シャリテ医科大学、トロント大学、国立研究開発法人 理化学研究所 生命医科学研究センター、国立研究開発法人 産業技術総合研究所、国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所、武田薬品工業株式会社、日本マイクロソフト株式会社、シスメックス株式会社、日本イーライリリー株式会社、オリンパス株式会社、DNAチップ研究所、合同会社みらか中央研究所、ジーンフロンティア株式会社
4	東京大学	変革を駆動する先端物理・数学プログラム	村山 斉 (国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構・教授)	日本製鉄株式会社、日本電信電話株式会社、株式会社電通マクロミルインサイト、エコールポリテクニク、カリフォルニア工科大学 (Caltech)、カリフォルニア大学バークレイ校 (UC Berkeley)、韓国高等科学院 (KIAS)、国立台湾大学、スイス連邦工科大学チューリッヒ校 (ETH)、清華大学、ソウル国立大学、ハーバード大学、プリンストン大学、北京大学、リヨン高等師範学校、ロシア国立研究大学高等経済学院、欧州原子核研究機構 (CERN)、数理論理学研究所 (MSRI)、フランス高等科学研究所 (IHES)、ポール・シェラー研究所 (PSI)
5	東京大学	先端ビジネスロー国際卓越大学院プログラム	田村 善之 (大学院法学政治学研究科教授)	日立製作所、富士フイルム株式会社、ソフトバンク株式会社、ヤフー株式会社、日本銀行金融研究所 ハーバード大学、北京大学、ソウル大学、台湾大学

連番	大学名	プログラム名称	プログラムコーディネーター	連携先機関名
6	東京工業大学	最先端量子科学に基づく超スマート社会エンジニアリング教育プログラム	阪口 啓 (工学院電気電子系・教授)	農業・食品産業技術総合研究機構、量子科学技術研究開発機構、理化学研究所革新知能統合研究センター、海洋研究開発機構、情報通信研究機構ワイヤレスネットワーク総合研究センター、産業技術総合研究所情報・人間工学領域、ジェイテクト、日本電気、日本精工、安川電機、アズビル、日立産機システム、横河電機、光電製作所、KDDI、ソフトバンク、華為技術日本、ショーボン建設、三菱UFJフィナンシャル・グループ、デンソー、川崎市、大田区、Google LLC、Intel Corporation、CEA Leti、Georgia Institute of Technology、National Taiwan University of Science and Technology、University of Twente、University of Rome Tor Vergata、The Ohio State University、Thammasat University Thailand、Univ. Glasgow、Technical University of Munich、Fraunhofer Heinrich-Hertz-Institute、University of Sydney、Institute for Infocomm Research、Cornell University
7	東京海洋大学	海洋産業AIプロフェッショナル育成卓越大学院プログラム	庄司 るり (副学長・学術研究院海事システム工学部門教授)	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所、国立研究開発法人海洋研究開発機構、国立研究開発法人水産研究・教育機構、Technical University of Denmark、いであ株式会社、BEMAC株式会社、NPO法人マリン・テクノロジスト
8	金沢大学	ナノ精密医学・理工学 卓越大学院プログラム	華山 力成 (新学術創成研究機構ナノ生命科学研究所・教授)	ニコンインステック、ファイザーR&D合同会社、リコー、富士フイルム和光純薬、オリンパス、ダイセル、浜松ホトニクス、Imperial College London、University of British Columbia
9	名古屋大学	情報・生命医科学コンボリューション on グローカルアライアンス卓越大学院	勝野 雅央 (医学系研究科副研究科長・教授)	岐阜大学(自然科学技術研究科・連合農学研究科)、生理学研究科、国立長寿医療研究センター、愛知県がんセンター、愛知県医療療育総合センター発達障害研究所、統計数理研究所、アデレード大学、ルンド大学、フライブルク大学、ミュンヘン大学、エラスムス・ロツテルダム大学、ノッティンガム大学、アルバータ大学、モナッシュ大学、ボローニャ大学、香港中文大学、高麗大学校、ラクオリア創薬(株)、ノバルティスファーマ(株)、田辺三菱製薬(株)、(株)島津製作所、オリンパス(株)、エーザイ(株)、大日本住友製薬(株)、武田薬品工業(株)、NVIDIA(エヌビディア合同会社)、CBmed
10	京都大学	メディカルイノベーション大学院プログラム	渡邊 大 (大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授)	カリフォルニア大学サンディエゴ校(アメリカ)、トロント大学(カナダ)、国立台湾大学(台湾)、分子腫瘍学財団研究所(イタリア)、National Institutes of Health(アメリカ)、Max-Planck研究所(ドイツ)、NeuroSpin(フランス)、国立研究開発法人理化学研究所、神戸医療産業都市推進機構先端医療研究センター、公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院、公益財団法人サントリー生命科学財団生物有機科学研究所、株式会社エヌ・ティ・ティ・データ、デロイトトーマツコンサルティング合同会社、株式会社ミクシィスマートヘルス事業部、株式会社KBBM、株式会社MICIN、エーザイ株式会社、第一三共株式会社、中外製薬株式会社、旭化成ファーマ株式会社、大正製薬株式会社、大日本住友製薬株式会社、小野薬品工業株式会社、田辺三菱製薬株式会社、杏林製薬株式会社、Chordia Therapeutics株式会社

連番	大学名	プログラム名称	プログラムコーディネーター	連携先機関名
11	大阪大学	多様な知の協奏による先導的量子ビーム応用 卓越大学院プログラム	中野 貴志 (核物理研究センター・センター長)	高エネルギー加速器研究機構物質構造科学 研究所、高エネルギー加速器研究機構素粒 子原子核研究所、量子科学技術研究開発機 構、東北大学サイクロトロン・ラジオアイソト プセンター、東北大学電子光物理学研究セン ター、J-PARC センター、京都工芸繊維大学、 東京大学アイソトープ総合センター、東京大学 国際高等研究所カブリ数理連携宇宙研究機 構、国立研究開発法人理化学研究所、 TRIUMF、The University of Queensland、 Heidelberg University Hospital、国立医薬品 食品衛生研究所、株式会社アトックス、テリッ クスファーマージャパン株式会社、株式会社ソシ オネクスト、株式会社日立製作所、日本メジ フィジックス株式会社、住友重機械工業株式 会社、富士フイルム富山化学株式会社、株式 会社京都メディカルテクノロジー、イービーエ ス株式会社、金属技研株式会社、東芝デバイ ス&ストレージ株式会社、ヤマト科学株式会 社、公益社団法人日本アイソトープ協会、アン ダーソン・毛利・友常法律事務所

3. 令和元(2019)年度卓越大学院プログラム 審査経過状況一覧(総表)

区分		単独申請		共同申請		合計	
		大学数	件数	大学数	件数	大学数	件数
国立大学	申請数	24	39	0	0	24	39
	ヒアリング 対象数	15	25	0	0	15	25
	採択数	9	11	0	0	9	11
公立大学	申請数	1	1	0	0	1	1
	ヒアリング 対象数	0	0	0	0	0	0
	採択数	0	0	0	0	0	0
私立大学	申請数	4	4	0	0	4	4
	ヒアリング 対象数	1	1	0	0	1	1
	採択数	0	0	0	0	0	0
全大学	申請数	29	44	0	0	29	44
	ヒアリング 対象数	16	26	0	0	16	26
	採択数	9	11	0	0	9	11

3. 令和元(2019)年度卓越大学院プログラム 審査経過状況一覧(機関別詳細)

【国立大学】

	機関名	申請件数 (合計)	面接審査実施数 (合計)	採択件数 (合計)
1	東北大学	3	3	1
2	山形大学	1	0	0
3	筑波大学	1	0	0
4	群馬大学	1	0	0
5	千葉大学	2	2	2
6	東京大学	5	5	2
7	東京工業大学	1	1	1
8	お茶の水女子大学	1	1	0
9	東京海洋大学	1	1	1
10	新潟大学	1	0	0
11	金沢大学	2	1	1
12	北陸先端科学技術大学院大学	1	0	0
13	信州大学	1	0	0
14	名古屋大学	3	3	1
15	豊橋技術科学大学	1	1	0
16	京都大学	3	2	1
17	京都工芸繊維大学	1	1	0
18	大阪大学	2	1	1
19	神戸大学	1	1	0
20	奈良女子大学	1	0	0
21	奈良先端科学技術大学院大学	1	1	0
22	高知大学	1	0	0
23	九州大学	3	1	0
24	熊本大学	1	0	0
	合計	39	25	11

【公立大学】

	機関名	申請件数 (合計)	面接審査実施数 (合計)	採択件数 (合計)
25	名古屋市立大学	1	0	0
	合計	1	0	0

【私立大学】

	機関名	申請件数 (合計)	面接審査実施数 (合計)	採択件数 (合計)
26	早稲田大学	1	1	0
27	同志社大学	1	0	0
28	立命館大学	1	0	0
29	近畿大学	1	0	0
	合計	4	1	0

合計	44	26	11
----	----	----	----

4. 令和元（2019）年度卓越大学院プログラム委員会等の日程について

